

給食協会だより

令和7年12月
公益財団法人
四日市市学校給食協会
TEL325-7724 Fax325-7734

地産地消の推進 —四日市ふるさと給食の日—

四日市市教育委員会と農水振興課、三重北農業協同組合、青果物業者、給食協会が連携して、「四日市ふるさと給食の日」を定め、地元四日市市の生産物を学校給食に活かす取り組みを始めてから今年で13年目になります。今年は、小学校が12月18日(木)・19日(金)、中学校がA班B班ともに22日(月)を「四日市ふるさと給食の日」に設定し、この日の給食には四日市産(一部三重県産)の生産物を多く取り入れた献立にします。

小学校

12月18日・19日(A班・B班)

【献立①】とり飯、牛乳、

地物たっぷりかきたま汁、手作り伊勢茶ゼリー

【献立②】小型玄米パン、はっこう乳、

地物たっぷりしのだうどん、さつまピーンズ、
みかん

<四日市産>米、緑茶、にんじん、白菜、中かぶら、
生しいたけ、小松菜、緑茶粉末、大根、白ねぎ、
のむヨーグルト、さつまいも、みかん、乾麺

<三重県産>菌床しいたけ、木綿豆腐、油揚げ
エリンギ、卵、大豆

中学校

12月22日

【献立】ご飯、牛乳、とんてき、ごまキャベツ
大矢知そうめん汁

<四日市産>米、そうめん、大根、にんじん、白菜、
小松菜

<三重県産>豚肉

子どもたちがこの「四日市ふるさと給食の日」の献立を味わうことで、地元の生産物に関心を持ち、生産に携わる人たちの努力や苦労に思いを寄せ、その生産物をいただくことへの感謝の気持ちな

どを抱いてくれればと願っています。また、日々の給食にも、地産地消の推進として、四日市産や三重県産の野菜をできるだけ多く使用しています。

衛生監視指導 —良質で安全な給食物資を届けるために—

青果物の物資検収

5月から11月の隔月に、小学校校長会給食研究委員会の校長先生、学校教育課保健給食係の指導主事と給食協会の職員(中学校は7月と11月に保健給食係の指導主事と給食協会の職員)で、小学校の調理校20校の給食室と四日市市学校給食センターの荷受室(中学校)を訪問し、青果物の鮮度・形状・大きさ・色具合・産地・実単価・量目を検査し、配送される青果物の実態を把握し、青果物を評価しています。配送される青果物の実態を把握しながら、評価内容を業者の指導に活かしています。今年は猛暑の影響もあり、青果物の納入には大変苦勞していただいているようです。また、納入単価にも影響が出ているようです。

納入業者への衛生監視

当協会では、毎年学校給食用物資納入業者を抽出して、施設や作業工程の衛生状態を監視する活動を行っています。小学校校長会副会長(保々小学校:桂山校長)、学校教育課保健給食係指導主事、栄養教諭・学校栄養職員代表2名とともに協会職員3名で、三昌物産、三昌鶏卵、きゅうざいの3社を訪れました。毎日のように物資を納入していただいている業者なので、どのように衛生面で配慮が

なされているのか、異物等の混入抑止のためにどのような工夫がなされているのかなど、衛生監視票に沿って衛生管理状況をチェックし、その結果を業者に伝え、自主改善を要望するとともに、業者からの報告書をもとに改善状況を把握し、業者の指導に活かしています。



令和8・9年度学校給食用物資納入業者登録審査委員会 開催

11月10日（月）、令和8・9年度の学校給食用物資納入業者登録審査委員会（以下、「登録審査委員会」という）を開催しました。登録審査委員会は2年に1回開催され、公募要項に基づいて応募してきた業者が、給食用物資を納入する業者としてふさわしいかどうかを審査し認可する委員会です。市保健所、市商工農水部、教育委員会事務局、給食関係学校職員、当協会役員の14名の委員で構成されています。

登録審査委員会では、それぞれの組織や事業所の規模、衛生管理の実態、物資の供給能力等を基に審査が行われました。業者には、安全・安心で良質な学校給食用物資を安価で安定的に納入できる能力を有していることが必要となります。さらには、異物混入や製品不良、数量間違い等のトラブルにも、誠意をもって迅速に対応できることが求められます。そうした点を踏まえ、委員の皆様方には、様々な角度から厳正に審査していただきました。



生産現場研修会

11月21日（金）、「おひさま農園」の「白ねぎ」圃場に行かせていただき、生産者の村田さん（和無田地区）から、播種から収穫・出荷までの様々な工夫や苦勞を説明していただきました。最後に、子どもたちには「白ねぎのおいしさが分かる大人になってほしい」と言われていました。

毎年、この研修会は農水振興課が行っており、調理員、学校教育課指導主事とともに給食協会も参加させていただいています。



生産者と小学生の給食交流会

12月9日（火）、三重北小学校5年生のみなさんと生産者の堀田さん（愛称：ナスケンさん）との交流会が行われ、学校教育課指導主事とともに見学させていただきました。この交流会は農水振興課が行っているものですが、コロナ禍などの影響で中断しており、6年ぶりに行われました。

堀田さんの優しい眼差しとトークに子どもたちは素直に答えていました。中には「野菜は全部嫌い」と正直に答える児童もいましたが、優しく受けとめて、実物の野菜に込めた思いなどを伝えていました。その後、堀田さんは児童と一緒に給食を食べて、児童一人ひとりにオリジナルのマグネットとシールをプレゼントしてくれました。

